

古事記編纂さん1300年を迎えて

〜出雲の魅力再発見・一人ひとりがおもてなし〜

人と人との交流 ふれあいによる おもてなし

地域振興は住むものの手で

木綿街道（平田町）は、平田木綿の集散地として、江戸末期から明治初期にかけて栄え、多くの商家が軒を連ね賑やかな市場町として発展しました。現在でも出雲格子と呼ばれる格子窓が連なる塗壁造りの建物が数多く残っており、往時の面影を伝えています。



木綿街道の写真（本石橋邸）

木綿街道に伝わる食文化や建築様式の多くは、この地域ならではのものであり、それを財産として誇りをもち、保存・継承していく活動がなされてきました。

平成16年には、「地域振興はそこに住む地域住民の手で盛り上げて行こう」をモットーに、地域住民が中心となり木綿街道振興会が結成され、訪れる人もてなし、木綿街道の良さを伝えていく取り組みがなされています。

振興会では、各種イベントを開催するなど積極的にPRを行うとともに、楽しみながら巡る新しい街道文化の創出を目指しています。

近年、歴史や文化を今に伝える中国地方の街道として国土交通省から「夢街道ルネサンス認定地区」として認定を受けたり、テレビやラジオや雑誌にも取り上げられたりするなど、「古い町並散策地」として注目されています。



4月 定時ガイドスタート
木綿街道おちらとりレーガイド

こうした中、この4月から「木綿街道定時ガイド」がスタートしました。この「定時ガイド」は、

従来からある団体客を対象としたガイドに加え、個人観光客を対象としたガイドを行うものです。集合場所、出発時間、コースが予め設定しており、利用者の皆さんを有料で案内していきます。

まずは、集合場所となる「木綿街道交流館」で平田や木綿街道の歴史、建築物の説明を聴き、その

古事記編さん1300年を契機に、私たち一人ひとりが、出雲の魅力再発見し、また、出雲を訪れる方をおもてなしの心でお迎えする観光振興に取り組んでいます。このコーナーでは、市民の皆さんが取り組むおもてなし・まちづくりを紹介します。

後、まち歩きを行い、木綿街道の町並みをつくり上げている老舗を周ります。老舗の各店主がガイドとなり次の店に引き継ぐリレー方式での案内となります。ここでは、その店がもっている木綿街道での歴史や商いの話、木綿街道での思い出話など、その店、その店、その人ならではの話を聞くことができます。

ガイドの皆さんは、「まずは訪れるお客様を心から歓迎すること、そして、何を求めているか見つけること、この2つを大切にしています」「歴史や文化だけでなく



ガイド風景

平成24年
4月スタート

木綿街道定時ガイド

- 毎週金曜日
- 13:30～15:00(予約不要)
- 利用料:500円/人(本石橋邸入館料含む)
- 対象:個人観光客(市民の方も歓迎です)
- 問い合わせ先
出雲市木綿街道交流館
TEL 0853-62-2631

おたすね／観光交流推進課
②16588

「再生可能エネルギー」について考えてみよう!

おたずね/新エネルギー推進室 ☎ 21-6541

第3回 「“多伎の風車” はどれくらい発電しているの?」

道の駅キララ多伎に隣接するキララトゥーリマキ風力発電所は、出雲市が運営しています。今回はこの発電所の運転状況についてご紹介します。

設備概要

- ・出力：1,700kW (850kW × 2基)
- ・メーカー：ヴェスタス社 (デンマーク)
- ・羽根1枚の長さ：26m
- ・運転開始：平成15年2月

「トゥーリマキ」とは、フィンランド語で「風の丘」という意味だよ!

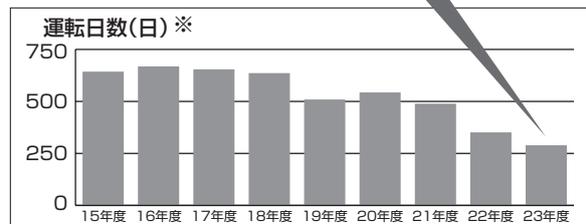
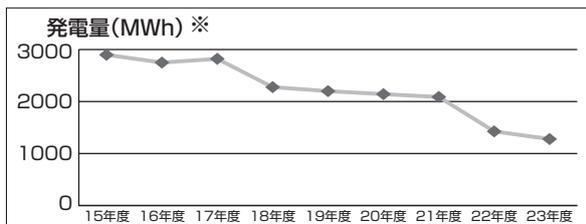
運転開始から約9年、人間でいうと40~50才くらいだよ。



出雲科学館
キャラクター
「リカム」

運転状況

近年、運転日数の減少により発電量が減少しています。



運転日数が減ったのはどうしてかな?

※風車2基の合計

原因は?

運転日数が減少している原因は、経年劣化に伴う故障の増加に加えて、落雷による羽根の破損が生じたためです。

☆経年劣化による故障

- ・油圧設備のポンプ故障やオイル漏れ
- ・発電機ベアリング(軸受)の金属疲労による破損…など

☆落雷による被害

- ・平成23年1月と3月の落雷による羽根先端部の破損(平成23年8月に復旧)

対応は?

風車に不具合が生じたら、担当者の携帯電話へすぐにメールが届きます。

☆365日運転状況をインターネットで監視し、不具合が発生したら迅速に「原因調査→部品発注→修繕作業」を行います。

複合的な故障の場合、故障箇所の特定制に時間がかかることが課題です。

☆故障頻度の高い部品の在庫を増やし、迅速に交換を行います。

☆故障の原因を特定し、強度の高い部品に交換する等、再発防止に努めます。



これからも創意工夫しながら、風車の発電量増加に向けて取り組んでいきます。